

友 林 蘇 岐

目 次

小川事業區に於ける伐木運材事業概況(四)	長谷川 毅
安井元吉君の靈前に捧ぐ	長坂 清人
官海二年有半	立道 乙松
絲蔭漫語	長坂 清人
懐しい方々に	(朝鮮にて) Y 生
維十首	草 枕 生
土曜日の午後	麗 春 花
通信	古 根 是
或鮮人よりの書翰の一節	
編輯部通信	
學 校 日 誌	
大正十一年度校友會費決算	
大正十一年度校友會役員	
會員消息	
記念會費金	
林友代	
塚越先生謝金	
領收報告	

○小川事業區に於ける 伐木運材事業概況 (續き)

長谷川 毅

三、運材事業

第五、集材機作業

本機は普通スキッターと稱せられ、(原名は Thieriggettyperverheerendeholwyskidrandlon) 所謂架空鐵索運材法の改良進歩されたもので米國紐育市リジャーウッド會社に於て製造せられ、然かも特許品となつて居るのであるが同會社に於ては、夙に本機の計畫があつて改良に改良を加へて今日見るが如き非常な偉力と巧妙な裝置を備へた作業機となつたのである。我國に於ては數年前臺灣阿里山に於て始めて使用されたのであるが、内地にありては一昨年度當小川入字下柿澤御料林に於て實施せるを以て嚆矢としたのである。本機が一昨年の春期米國同會社から購入されてから同御料林に運搬され組立、据付、試業後、運轉作業するまでには、現上松出張所長辛木林學士を始め當局の色々調査、研究と尠からざる苦心とに依り達成せられたもので、其勞、其功は實に多とすべきである。是が解説に就ては辛木技師が山林會報及び「集材機械に就て」の説明書に依り廣く一般林業界に紹介せられて居るので、今更私が茲に申上げる迄もない。が只今本紙上には未だ其名すら記さ

れて居ないのであるから極く簡単に其要點のみ掲記することゝしたのである。しかし其要點と云つても實物若しくは圖面と對照しなくては分り難いのであるから、私は今茲に其運轉とか、作業方法とかに就て詳細に述ぶことは出来ぬのである。故に本機に就て少しく詳しく研究して見たいと思はる、諸賢には、一度小川事業所へ行つて、實地に於て實物に付其運轉作業方法の狀況を見て戴くことを御進めするのである

(一) 本機的主要點を擧ぐれば

價格 五万二千圓
噸數 十七噸半
動力 蒸氣力
馬力 最大 百二十馬力
平均 七十馬力

型現在當事業所で購入した型は特別に當局より注文したもので、普通型より少しく小型である(故に一名 smallskidderとも稱せられて居る)

燃料 薪材殊に木質櫟材は最適で一日(一臺) (百立方尺)を消費する

(二) 機械の構造大要

動力は前述の如く蒸氣力で、蒸氣罐が縦式であるのと、機械の運轉に依て起る動力を齒車の傳達に依り、二個乃至三個の卷索鼓(原名 drum)を回轉せしめて是等の卷索鼓

に鐵索を巻かしめ或は施る様に出來て居るものが、本機の特異とする處である。而して此機械は二部の機械よりなつて居り、其一部を運材機、他部を積込機と稱して居る。前車は本機の主なる作業機で専ら集材の用務をなし、後者は從なるもので左の作業をなすものである。

- (一)機械自體の移轉
 - (二)木材を貨車に積込む作業
 - (三)主索(後説)其他の鐵索の張替
 - (四)薪、水、其他の運搬等
- 此二個の作業機は、各々シンダーとシンダーに蒸氣を誘導するパイプを備へ付けてあるから二機同時に或は個々別々に作業することが出来るのである。例へて云へば運材機が集材して居る間に積込機が木材を貨車に積込んだり、或は鐵索の張替をすることが出来るのである。尤も機械自體の移轉の場合に於て集材作業を中止することは論を俟たぬ。斯くの如く二個の此作業機は各異つた働をなすものであるが、是を固定し取付けてあるものは、大きな頑丈な木造橋で、機械の移轉の際には、此橋の滑走に依り平坦地は無論のこと高底角二十五度位の急斜地でも委細構はずに上り得るのである。斯る重量多き機械が山腹の急斜地を移動するといふことは、一寸人の想像し得ぬことであらう。此移動の働きも本機の特點の一として稱すべきものである。

(三)装 具 品

(2)運材車に取付のもの

- A 鐵 索
 - (1)固定すべきもの
 - 1 主 索
 - 2 緊張索
 - 3 連結索
 - 4 控 索
 - 5 支控索
 - 6 替 索 (又は輕索)
 - (2)移動すべきもの
 - 1 制動索
 - 2 集材索
 - 3 緩 索
 - 4 卷材索
- B 運材車
- 本器は本作業の手先となるもので前説A(1)主索上に懸り(2)の制動索及び集材索の移動に依り、前方、後方に動かさる、機になつて居り、常に主索上を往復して木材を運搬するのである
- C 滑 車
- 1 主柱(後説)に取付のもの
 - 1 主索滑車
 - 2 緊張滑車
 - 3 集材滑車
 - 4 制動滑車
 - 5 緩索滑車
 - 6 備索滑車

前記作業機の外具品として、左記のものが附屬して居る

吊材滑車

(3)尾柱(後説)に取付のもの

- 1 制動滑車
- 2 復輪滑車

(四)作 業 法

本機に依り一事業地の集材作業を實行せんには、第一に集材の中心となるべき位置を一乃至三個地形(主として周圍線及び山腹の傾斜)に應じて定め、積材進行の順序に依て中心位置の順序を定め、次に第一の中心位置に本機を据付け其近くの適當の處に大なる立木(大體、造材の際撰木して伐り殘す)撰定して主柱とし、又伐採せられたる周圍の要所便宜の立木を三十間置位に十本乃至十數本を撰定して尾柱とし、前説の主索を此の主柱と尾柱に張り前説緊張滑車及び緊張索に依て此主索を緊張し同時に運材車を主索に取付け、更に前説の集材索、制動索及び其他の鐵索を取付け又は等の鐵索を任意の方向に移動若しくは變せしむる爲に前記の諸滑車を、主柱、運材車、或は尾柱に取付け移動索のみは前説「(一)構造に於て述べた卷索鼓に巻き付け以て大體の準備又は出來た譯である。

次に運材機に動力を起して齒車の傳達に依り三個の卷索鼓を回轉せしめたり、制止したりして、此三個の回轉と制止の組合せに依て、運材車を前方に送り又は機械の方向に移動し、又或は運材車を停止せしめて連索窩及び前記A(2)の卷材索、此連索窩

及び卷材と云ふ及び集材索を地上に卸したりするのである。而して此卷材索が集材索と連索窩に依り連結せられたるま、地上に卸された時は附近に散在せる木材を卷材索にて束し、運材車を制動索に依り固定して置いて、集材索を卷索鼓に巻くと、木材は運材車の直ぐ下まで吊り上げられ、然る後に於て制動索を緩めて集材索を更に巻けば運材車は恰かも驚が大きな餌物を掴んで空を悠々と舞ふが如く數本乃至十數本束ねた木材を吊して、機械の方向に主索を傳つて移動し來たり、機械の前面の積木場に於て卸木直をして一作業を終るのである。

斯くの如くにして、一主索線の兩側の木材を集材したならば、主柱は其まゝとして次の尾柱に主索を移し前記の如き作業法を行ひ其の主索線の區域の集材が終らば、又次第に尾柱を取替へて前法を繰り返して第一据付位置を中心とせる集材作業を終らしむるのである。次に第二の中心位置に機械を移轉して、前記の順序方法に依り第二區域の集材を終らしめ、次に亦第三中心位置の區域に前法を繰り返す事に依て、一事業地の全集材事業を終了せしむるのである。而して此主索線の兩側は、各十五間位の距離まで集材し得るのであるから、尾柱と尾柱との距離は約三十間となる譯である。又主柱と尾柱との距離の最大限度は一千五百呎で即ち主柱を中心として千五百呎の距



◎安井元吉君の
靈前に捧ぐ

長坂 清人

離を半徑として畫いた面積が最大集材區域であるしかし是は餘程の地形の良い處でなければなり立たぬことで、或は半圓狀となり、或は扇狀となり、又或は始めは千呎で途中五百呎となり奥の部分に行つてから千五百呎となる云々様な譯で、要するに集材し得る面積の多少は地形に依り餘程制限せらる、こと、なるのである(次號完結)

畏兄安井元吉君の訃を聞く、哀しい哉、謹んで靈前に哀悼の辭を捧げんとするに當り懷舊の情轉た禁ずる能はず、兄や人となり醇厚にし己を持すること謹嚴に、確乎奪ふ可らざるの志操あり一度笈を負ひて木曾に遊ぶや眞摯なる人格と豊なる學殖とは諸先生の歎稱となり偉友の尊敬とはなりぬ。我等はそも幾度か兄の人格の美はしき反映を見たる事ぞ兄は林學を修むるの傍文學を好み詩文をよくし所説穩健よく中庸を得常に我等進むべき道を教へて誤らざりき。兄の如きは實に母校の誇りにして後進の模範たりき而して今や兄が温客に接する能はず嗚呼哀哉。不肖兄と年を同ふして母校に入る出で、は教室に机を並べて學び入つては寄宿舎に櫛を接して臥す、學窓三年、終始寄宿にありて余が最も厚く兄事したる一



官界二年有半

立道 乙松

人なりき、兄や年長にして林業に従事する事年あり。無知幼弱なる余を愛弟の如く慈しみ學課に實習に携みなく指導し誘掖し庇護せられ余は茲に於て常に最も信頼すべき愛兄を見出したりき。

大正六年三月業終りて母校を出づるや直ちに三菱に入り生野鐵山に勤務せらる、至誠事に従ひ上下の信用頗る篤く生野鐵山に缺く可らざるの人となる、爾來年々を積みする事五年有餘地歩漸く固く將に雄飛の秋に入らんとし而立を一期として逝く、思へば痛惜極なり。黒川の流も爲に咽び生野の松嶺も爲に泣かむ。嗚呼英靈何れの處にか通ふ悲しみ極まつて云ふ處を知らず唯止めんとし止め難き涙の頬を傳ふるを覺ゆるのみ。謹んで靈前に捧ぐ、終

面白い、三ヶ年の學生生活を終へたのは、丁度今を去る二ヶ年有余前大正九年三月末日のことである。冬以來降り積つた雪は、漸くけありのよい所ばかり消れて此向きの所はまだ消えやらず、吹く風はまだつめたく身にしみる頃であつた。忘れもしない卒業式は二十六日の午前中に終り午後から謝恩會があつたが、それが終るや否や蘇峽を辭したのである。それは永い間の勉學地たる、山水明媚な福島の地が厭に

なつた譯でもなく宿泊するマナーがなくて
パンに窮した譯でもなかつた。それなのに
何故この戀しい土地に止まるを許さず、一
刻も早く去りたかつたのであるか？

今だにその謎が僕には解けないのである。
歸郷のときは皆々新調の洋服を着込んで
ネクタイの如きは十日も前から買つて來
て盛んに結付けの練習をなし、漸く形だけ
は出來た。洋服こそニューではあつたが一
歩踏み入つて見るとズボン下は二ヶ月も前
からの其儘洗濯もせず、白か黒か一寸白人
眼では「判明不可也」と書きたい位であつた
今になつて考へて見ると實に滑稽でたまら
ない。付知出張所にお勤めの丁君の如きは
殊にハイカラで洋服等も立派であつた御料
の官員さんでは詰襟を貰ふからその必要も
なくあのときの洋服は行李の中で開で困つ
て居るだらう。その時だけは丁度大臣にな
つたやうな氣がしたのであつた。多くの同
窓生は、スチーション迄送つてくれたが
そのときの心中は、別れの悲しさよりも前
途の希望が燃ゆる様で、惜別の念は余り覺
えなかつた様に記憶して居る。自惚大臣を
以つて任する小林務官は、囑役所へ行けば
物質上精神上、充分の待遇はしてくるだ
らう。理想的のワイフを貰つてあの世界的
景賞地たる東海の天に於てニューホームを
作らう、おいしいパンは充分得やう、金も
貯ふるだけ貯ふ、洋服もよいものを充分數
多く作らう。これがその當時の希望であつ

た。全く物質上の欲望に於ては、唯物論者
たるマルタス氏以上であつた。これ等の希
望が今になつて、叶つたかどうか、又叶ひ
つ、あるかどうか？

故山へ歸つて採用通知に接する迄は約二
ヶ月であつたが、その期日の余りに長い
には閉口した、この期間のみ一晝夜五十時
間以上の様な氣がした。何事も手につかず
只々就職先の土地、事務上の事等につい
て空想して居たのである。丁度俗に云ふ鶴
の首程待つて、五月二十二日のことであつ
た「静岡縣知事官房」として官封が來た、急
いで開いて見ると「御用有之候條五月二十
四日迄に出頭相成度」と簡單にかいてあつ
たその時は非常に喜こんだ。それでも愈々
新任する様になつて見ると、何だか不安で
たまらなかつた。今までの喜びがどこへや
ら行つてしまつた。生れ故郷が伊賀の山の
中であるのに木曾に三年も暮して猿公然た
る自分は、静岡へ來て少しは賑かで奇麗な
のに満足した。丁度製茶期であつたので、
異人連が夫婦携帶で市中をねりあるく、又
各地からの製茶の入荷、生きた様な鯉をつ
んだ車が幾臺となくつゞく、美しく着飾つ
た婦人が數知れず行き替ふ、僕は宿の窓に
もたれて考へた「静岡市の六月は、茶と美
人と鯉の市である」と。(今になつて考へる
とその貧弱に驚くが、その當時はそう思ふ
た) あくる日の朝五月雨のしとしと降るの
に女中の案内で縣廳へ出頭したが余りに役

所の外觀の立派なのに面喰ひ、門内に入る
に少なからず心をいためた(今考へると自
分ながら余りの愚に恥じるがそのときは心
だけ子供であつたので全くさうであつた)
二三回門前で三百六十度の回轉をして、漸
く門鑑の案内で内務部長室へ行つて、辭令
を受け赤面低頭で挨拶を済ましたときは、
やつと安心したけれど甚だ貧弱ながら、靜
岡縣産業技手として官界へふみ出した第一
歩であつた。

林學の智識こそ中等程度としては恥ない
位(或は自惚かも知れないが)教わられて
居るが始めは「相成可然哉」の立案の仕方一
つ知らないため種々の滑稽を演じた次編に
はそれを記することにしやう(つゞく)



綠蔭漫語

長坂 清人

◎潑刺たる夏が來た。男性的な夏が來た。毎
年夏休が來ると母校の夏季實習が想出され
る、當時は嫌なもの一つに考へて居る下
莉や測量實習が今は懐しくて／＼たまらな
い「メンバ」の飯を食つて澤の水に喉を潤
し木の影に寝轉んだ氣持ちよさはも早再び
繰返し得べくもない。私はこうした恵まれ
た過去を感謝して居る、一年一回の年始状
さけ欠かして居る程御無沙汰しても同窓生
の人達に對してはいひ知れぬ深いなつかし

我若き日の思出に 呪と悔のなれよと
契を結ぶ花瓶に 開く情の花一つ

(超然寮々歌)

◎去る六月廿四日で何の先生の講義も一段
落となつて夏休みとなつた、海邊に向つた
風通しのよい部屋をあけはらつて藤椅子に
凭れ乍ら靜かな瞑想に耽る、私達は始終考
へる世界に活きねばならぬしも我々の生
活が軽々しい丁度雲雀の様な生活であつた
ら悲しむといふよりはむしろ恐ろしい事だ
らうか々と青春の修養時代を過したなら未
來はどうなるだらうそれは考へて見るだけ
でも恐ろしい事ではないだらうか「學問や技

術の秀れて居る人は決して少くないけれど
も修養ある品性の所有者に至つては曉の星
よりも稀れである」といふ先輩の言葉を馬
耳東風と聞き流してはならない。呪ふべき
鳥の羽根の様な生活は淺薄なオブラティミ
ストよ、永へに呪ふべし
吞氣と見ゆる人々も心の底を叩いて見る
と、どこかに悲しい音がする(漱石)
◎「強き人となれ」とはニイチエの詞である
「戦を求めよ平和を希ふな若し在るとする
ならばそれは新しき戦の準備としての平和
であれ」といふのも同紙の詞である。力は
絶對である。勝利は常に力ある所にのみ求
めらる。力の最も偉大なる所有者は自然で
ある自然の力の前には何人も屈服を要求せ
られる。

人間に於ける力の發現は意志である、意
志は人格の中心である。人格の本體は通常
「自然人」である故に人の價値は意志の如何
によつて決定せらる、然れども價値といふ
事は難かしい事である、評價といふ事は更
に難かしい事である。

◎自然界に存在するものは大抵意義がある
其意義は其物の「効用」である、それ故効
用はその物の存在の意義であつて從て客觀
的であり普遍的に妥當する「價値」といふ
のは効用の認識の程度であるだから主
觀的であり制限的である「効用」に變化はな
くも價値には動搖がある、骨董品や贅澤品
を考へて見ると此の關係は明瞭となふ價

に高下の差を生じても効用には變化はない
一個の土器に數千金を投じ一輻の掛軸に數
万金を投ずるのも畢竟價値が主觀的である
からである然し一方人には共通性がある甲
が高く價値つづけるものには乙も亦大抵近似
の高い價値を認める其故通常の意味に於て
は價値の高いものは効用も大抵高い然し乍
ら價値と効用とは別に區別せらるべきもの
である。和尚に算盤は無價値であり商人に
僧衣は無價値である。然も算盤も僧衣も其
自身の効用には變化はない「評價」とは効用
に價値つづける行為である從て評價は正しき
場合に於てのみ尊いのである社會は頗る復
雜である一方物が其の効用に對しては正し
き價値を得來る様にせらる、と共に又他方
効用以上に又は以下に評價せらる、場合が
頗る多い茲に於て色々の矛盾が生ずるニイ
チエをして「價値の顛倒」を叫ばしめたのも
故ありといふべきである。

◎社會は人によつて構成せられる從て人は
社會の單位である生物は細胞によつて構成
せらる、故に細胞は生物の單位である其故
人を離れて社會なく細胞を離れて生物はな
い然し乍ら單位と成生物との間には非常な
差異がある一枚づ、なれば一錢銅貨である
が百枚集れば一圓である一圓と一錢とは同
一でない。

社會は我々によつて構成せらる、けれども
我々と社會とは別な物である。
英語のは Society ラテン語の socius

Shaw Attachmentより 来た事は明である社會の本質は我々門外漢には充分に解らないけれども兎に角人間の社會は我々によりて構成せられるものであらう然るに我々は自身で社會を作り乍ら社會によつて又作られたものであるこれは東西古今の歴史が明に證明して居る識見才略一世に高く社會に一期を劃した英雄も其時代の社會が病んだものであるとの見解は正しい實に社會は我々に取つて侮り難い權威である自分が正しいと信ずる事でも社會が悪と見れば決して善にはならぬ習慣も道徳も法律も皆社會の產物であるこれらは絶大の權威を以て我々に服従を要求するやむを得ざる場合には少數の犠牲者を出しても多數の福祉を保護せねばならぬとは社會のいふ事である。

大抵の人々は社會の絶對の權威者であると考へて居る然し此の思想は正しいかどうかが疑はしい社會を絶對と考へて社會のいふ善を我が善とし社會の惡を我惡とする思想は果して誤りが無いであらうか善惡の標準は社會に範るべきものであるとは何の論理學者もいつて居ないらしい自分は此間多少の疑問を有する。

「ある動機より或行為が器械的必然的に決定せらるゝなれば我々は其行為に對して責任の感念を有する事は不可能である」から。

◎想はず筆が理窟に陥つた、暑い夏に理窟は禁物の筈であるそれよりもラケットでも



懐しい方々に

朝鮮にて Y 生

振つて運動場へ下りやうではないか元氣と愉快を胸一杯に吸込んで高やかな晴れやかな気分に分を置く事こそ若き者の特權である、母校も早や廿一の齡を重ねた一年一年と伸びゆく健全な生長を望んでやまぬ二十といふ齡こそ正に活動の門出の第一歩ではないか切に在校生及卒業生諸兄の奮起と健康とを祈る。(一九二二、七、五)

岡部校長先生西澤先生中村先生菊池先生田中先生小貫先生塚越先生三溝先生熊崎さん懐しい皆々ますますつかり御無沙汰致しました、どうぞ御許し下さいませ私が皆様と御別れしてこの淋しい朝鮮に來てから丁度二ヶ月になりました早いものですねえ、初めの中はすべて物珍しかつたせいか度々御通知致しましたが其の後俗務に迫られ病氣を度々して心ならずも御無沙汰して申譯ありません、今は丈夫で暮して居りますから御安心下さいませこうやつて遠く異境に暮して居るとやはり母校特に皆々様は戀しいは御座います、林友を見る度に、通信せねばならない、と思ひ乍らも例の筆不精でして……

四月號林友を見てあまり懷きに筆を取ります、悪文惡筆御笑ひ下さいませ私が母校に在職當時の方々に今残つて居ら

れる人々は前に書いた方々だらうと思ひますから失禮乍ら便宜御一人づゝに色々な事を申し上げ度う御座います

岡部校長先生

先生とは僅か足掛四ヶ月しかあなたの部下として可愛がつて頂けませんでしたひしか大正九年三月先生が御赴任になつてから全年六月に私が助手を辭して當地に赴任する間だけでした、然し先生私は先生に對しては世辭を申し上げるのではありませんが私が生を此の世に受けて二十四歳になる今日まで凡そ先生より受けた恩偉大な感激を受けた事はありませんでした御赴任翌日夜の先生の御話や又毎日の食堂の御話又は度々先生に伴はれて散歩しました德音寺寢覺の床の途すがらの御話今だにのりありと胸に浮びますわすか御勸陶を受けた間は四ヶ月で御座います然し宗教に依つて人世觀を御持ちになる先生の崇高な人格の光に浴した私は實に當時幸福な身で御座いました、若しも家庭の事情が許され、は何時までも先生の御側に居り度う御座いました然しあ、いふ事情で御別れしなければ止むなきに立ち至つた時は實に悲しう御座いました何より残念でした先生、は全身愛に満ち満ちた先生の御側に居つて御話を承つて居れば全く神の慈悲に浴して居る感じがしましたもの朝鮮に來て滿二ヶ月其の間大正九年六月到着し十月より十二月にかけて赤痢を煩ひ次てマラリヤ熱にかゝり漸く全快して又昨

年九月より本年一月にかけて腸チフスにかゝり幾度も死生の境を往來し獨異境の空に孤影悄然として冷い病院のベッドに横り身の越し方を思ひ堪難く淋しかつた時常に考へたのは故郷に別れた家兄や姉と共に實に先生でした先生わづか四ヶ月の間に私に救ひの種を播いて下さいました、幾度も死にかゝり既に醫師は見はなされた折死の境を越えて助かりかうやつて今では無事に其の日を暮す事の出来るのは一は醫師の技術にも依る所多いでせうが爾の信仰は爾の肉体まで救ふ事が出来たので御座います、今は全く毎日感謝に日を送つて居ります先生に依つて播かれた種子は漸く實を結びました乍失禮お喜び下さいませ

どうぞ御体御大切に神の恵みの深からん事を祈ります、朝鮮の状況も大分變りました又此の次に御知らせ致します

西澤先生

先生には在校中三ヶ年教室に實習に勤陶により又助手として一ヶ年母校在職中も常に御教導を受け切つても切れない親子の關係といつてもよいでせう、親切な優しみのある「おとうさん」とでもいひたい先生は懐かしい御座います、よく私は先生から叱られました然し實際の事をいへば叱られる時は實に堪難い程腹が立ちますが後で靜かに考へ特にこうやつて遠い異境にあつて昔時を追憶する決は叱り方に一点としていやみなくかくしなくすべてを叱られる所に恩師

としての誠心が感じられ何もいへない、感じがします(そういつては甚だ失禮ですが)今でも時に叱られ度いと思ひ又甘へて見度いと思ひます

西澤先生は木曾山林學校創立當時から十幾年と長い間(例ひ中間で切れても)勤務せられずつと前の卒業生の方は知りませんが恐らく先生の御世話にならぬ卒業生は少いでせうまあ元勳とでもいつてもよいでせうと思ひます、どうぞ御体御大切に遊ばして母校の爲いや長く御働下さる様に御ねがひ申します、末筆乍失禮與様によろしく御つたへ下さいませ

中村先生

先生とはわづか一ヶ年先生は教頭として私は林業助手として共に母校の爲働きましたに過ぎませんでした、今でも勿論若いですが當時私は漸く學校を出たてのはやはやでした爲め随分教頭たる先生に無理ばかりいひました

御心の廣い先生はいつもだまつて私の我儘を御許しになつて下さいました今思ふと實際冷汗が出ます、不相變英語を御勉強で御座いますか先生のテニスのスタイルとひげの立派なのが目の前にちらつきます懐しい御座いますどうぞ御体御大切に

菊池先生

先生と私は實に仲好しでした(私の一人ぎめですよ)いろいろな學者肌な先生運動家にして雄辯家又身のまわりを意ど

先生は私一人のみならず總て當時(勿論私の助手當時)の生徒全体が大變好いて居る様でした、講義に熱があり教授に親切で生徒の心理を理解して居られる、先生と好評々でした

私は先生大好きでした、先生とはわづか四ヶ月しか交際しなかつたでせうと思ひますが共に學校の宿直室に立てこもり朝ねをして隨分先生を困らせました、帝林局支局横のあの豆腐屋から讀みしはつた豆腐や油揚げを二人で買つて來たり又町から里芋や油揚げを買つて來たりして寄宿舎の食物の不味だと炊事をやつたものですね、あの夏でも冬服をきて除虫網を持ち毒壺を肩に掛けた先生のお姿が懐しく思ひ出されます、柔道剣道は不相變おやりですか余程強くなりましたでせう、一度歸つて又先〇と快談し度う御座います

論文の方はどうですか切に御成功を祈ります

田中先生

先生近頃和歌はどうですか、どんと拜見しませんか腰折近作一首御覽に入れませうか

團々どいのばれば樹も丘も

あしのまろやも地に沈み見ゆ

御笑ひ下さい

さて先生近頃よく林友誌上に林友改善のなんの色々な説がのります様です編輯主任の先生に實に同情します、勿論執筆者は林友を愛するの情の發露で色々な事、

れるの下せうが何しろ原稿の品切れで、實に弱りますからね（私の在校中は編輯者は原稿品切れで困つたものです）

一、一般會員はもう少し根氣を出して何でもよいから投稿し編輯者がその撰擇で困る位投稿すること（皆沈黙して居ても發表せず只林友貧弱）といふは少し無理なる事と思ひます

二、一般會員はもう少し各地で團結して母校との連絡を取り林友の様な機關雜誌を利用して相互の親睦を圖り林友を冷眼視せざること

平凡ですがこれより外にはないと思はます。さうでせう先生、仲々毎月の雜誌編輯を教務の傍御やりになる先生は随分御疲れだらうと思ひます、他の數校の様なら一年一回や二回の校友會報とは違ひますからね、閑話休題御作歌を拜見し度う御座います。うでせうか、眼の御悪いのはすつかり癒りましたかどうぞ御大切を祈ります

小貫先生 御無沙汰致しました、先生と私は私が助手奉職當時仲好でしたね、不相變飲みますかよく二人で飲んだものですね。快談したものですね。今では私は少しも飲みませんが矢張あの當時は懐しう御座いました、先生にはよく柔道を教へていたわいてわづ

か一ヶ年に三級の免狀を貰ひました。やらないからすつかり駄目になつてしまひました。惜しう御座います、あなた方の御努力で母校運動界も大變な發達だそうすね。野球も出來たそうで誠に結構です。益々御發展を祈ります

取戻れましたが赤ちやが生れたそうで御祝ひ申し上げます。無線電信で或る人から通知が來ました、もう黒川での夜間カジャつきも初まつたでせう先生は名人ですから澤山とれます。事と思ひます、どうぞ御体御大切に塚越先生

先頃友人の鈴木君から先生は藏尾君に職を引かれた事を承りました。からもうこの原稿の母校に到着する時は御出にならない事と思ひます、先生の落ちついた君子然たる御姿が目につきます、もし引かれたとなると誠に御名殘惜しう御座います、私の母校在職中は先生は合監でよく夜分話したものですね

どうぞ御便下さいませ御体御大切に三澤先生 あなたとはよく庶務室で激論をやつたものですね。懐しい思ひ出になりました。御丈夫です。か母校發展につれて仲々御多忙の事と存じます。御ひまが御座いましたら御便下さいませ 熊崎さん 御無沙汰致しました。不相變あなた方御夫婦は愛する若人達の爲に面倒を見てやつて下

さつて居る事と存じます。私が在職中は、か宿直室に起居して居つた關係上朝夕苦樂を共にし懐しう御座います、私は當地へ來大層苦勞しました。病氣を何度もありました。今は健康ですから御喜び下さいませ、どうぞ御体御大切に御事しなされる様祈ります。こ、まで初めから書き切めたら宵の七時に書き始め今は朝の四時です。流石の朝鮮にも時鳥が居るか二聲三聲きこえました。木曾の天地然も杭ヶ原の今頃を想起して望郷の思切です。敬愛する皆様方では失禮します。又朝鮮の事情や林業界の現況をしるして御しらせ致しませう。 さよなら 一九二四年五月二〇日

○雜十首

草枕生

雨幾日梅雨づけるにか雲低く垂れし夕の川音高き。 雨つゞき水増せるらしこの夕川瀬いたくも高まり聞ゆ。 ひびきえど夜氣身に沁むおぼろ夜の蛙の聲の賑やけきかも。 いささかのことに惱める我心叱りて見しも幾度なりし。 ある時は草にまろびて仰ぎたる空の碧さに涙ぐみしを。 蛙啼く田の面々は來て想ふ彼の良寛の歌の

（七月六日出校友會宛會員消息欄參照）

○或る鮮人よりの

書翰の一節

拜啓山は到る處にあり山あれば必ず森林無かるべからず。現在朝鮮に於ては禿山多火を見るが如き感起る朝鮮に於ては禿山の多きに從ひて植林獎勵を急務とする然るに朝鮮には森林に就いて専門的に研究する學校はなく憾みに堪へざる處なりしが夢にも知らざる森林學校の存在せるのを聞き恰も沙漠中にて水を得たるが如く無邊大海にて島嶼を見るが如き感起る當地の俱樂部にては相謀りて貴校の内容を確實に知らんと感切なり依りて當地方の俱樂部にては貴校の内容を確實に知りたる後貴校へ派遣すべき學生を求むる決議中でございますが以下の疑問の應答によりて入學の爲不爲を決定する筈でございます（後略）

編輯部通信 編輯係曰く右は七月六日朝鮮慶南島山府新町禮拜堂内金泰旭氏より學校宛の書翰の一節である

○通信

古根 是

（前略）迫て當地方は造林手入蔓切の時季にて早きは六月中旬より着手し遅くも八月中には終了せしむる計劃にて腦天を焦しつ、事業實行中に有之候當擔當事業所本年度施業區域は前年度着手年度完了せしむる區域十八町歩弱當年着手年度完了せしむる區域四十町歩弱計五十八町歩弱製炭が主にて黨數計四十三個用材はクロマツ、ベニタブ、シラタブ、柚角アカガシ、シラカシ割材イタシ井枕木等を造材致居候云々

○土曜日の午後

麗春花

土曜日の午後より三年對一二年（聯合）庭球試合を行つた各級の應援は非常に烈しく爲め裏山演習林にゆるぐ許りで有つた其の經過を記せば（但し二組抜き優退）

第一 一回 戦

三年組

一二年組

- ×(松島) 川上 〇〇(原田) 星
×(松島) 川上 〇〇(向井) 林
×(片原) 向井 ×(北原) 金子
×(田中) 林 ×(金子) 神崎
×(兒玉) 吉野 ×(川上) 原貞
×(青山) 吉野 ×(櫻井) 神崎
×(大池) 下條 ×(樋口) 曾我
×(池口) 吉野 ×(加藤) 古幡
○(佐藤) 蜂谷 ×(樋口) 磯村
○(長谷川) 小幡 ×(加藤) 田口
×(佐藤) 田澤 ×(松島) 岡庭
×(長谷川) 海老澤 ×(青山) 鈴木

友 林 蘇 岐

物の香氣が匂つて来る程にも思はれます。殊に新しきは今の「時代」であります。木曾山上にあつて時代の進歩をたゞる音を聞く事が出来たといふ時でも進歩を休めたる者は遂には顧られざるが如く見ゆるではありませんか。尤も新聞を見て驚くのではあります。新聞や雑誌を追越して或新らしき物が過ぎ行くつゝある様に見えます。要領を貴び策略を鼓吹しつゝある今の代に代つて眞面目なしつかりした時代が来るやうに見えます。兎に角にそれは新らしき時代であつて少くとも我等の憧憬をつなぐに足ります。そして私は思ひますこの来るべき物に對しての童景をもち心構へをするに非れば今の時代は活動せしめないのではないかと、我岐蘇林友誌も確に或決意をもつて全會員が導き育み行くべきであると思ふのであります。

○岐蘇林友を如何にすべきや、岐蘇林友改革案、又は其他の題目を掲げて我林友の發展改造案の唱へられし事は私の知る限りに於ては大正四年からであります。齡は既に百五十を超へ發行部數大約一千、樺太よりサガレン洲、北米、シガポール、滿洲等に送られて相當の役目を果して居ます。若し力を加ふる餘地だにあらば出来るだけいものにしたと思ふのであります。古くから改造案の稱へられたのも今日の隆盛を見越しての故であります。本誌は御承知の通り先月號から紙質丈けよくなりました。

然し今の處これよりよくなるはなりません。これ一部送料共四錢はかゝります。故に近々林友は値上げをし度いと思ひます唯雜費等の無理の節約によつて支へて居る事を御承知下さい。本校の校友會費は現在四拾錢であつて餘り安いと思はれません。その中の約三割が岐蘇林友の爲に用ひられて居る事は先月號の所報の本年度校友會費豫算に明かであり、校友會事業として如何に雜誌發行が適當なものであるとはいへ今少しく他の事業の方に力を注ぎ度いと私は思ひます。教室に於ける授業に比較して見て校友會費を以てなされる諸種の教育が仲々侮れないものであると思ひます。校風の作興校勢の擴張は實に校友會が原動力であるのであります。私はこの校友會の活動を敏活ならしめ度くあります。

○林友代の未納及滞納は甚しきものであります。御心づきの諸君は至急御送金を願ひます。又近頃の卒業生諸君の上には未納の方の多いのを頗る遺憾とします。校友會として實に困つて居るのであります。重ね重ね未納及滞納の諸君の御送金を願ひます。御送金は當に林友の爲のみではありません。我校友の前途を更に輝かすものなる事は前項に述べた通り敢へて詭辯ではないと思ひます。若し未納滞納の多い場合は勢林友誌の縮少又は未納滞納の諸君に不送の處置をとらざるを得ないやうになります。之は遺憾である。退要策は餘りに好ましくありません。

せん少くとも躊躇すべきものであります。何卒總てを御賢察あらん事を望みます。○滞納未納不明の方は御通知下さればお知らせ致します。

○轉住、轉任、其他總ての消息を御通知願ひます。會員消息欄は最も意味深きものであります。

○研究の發表を願ひます。研究の内容に價値があるのではあります。研究その事が自他を益し意味深く思はれます。

○隨筆の詩歌投稿を願ひます。「賢明なる沈黙」は林友に對して何の役にも立ちません。○御投稿はなるべく姓名を明にして下さい。匿名のなくなる時を待つて居ます。

○王洋生なる君の「犬のグループ」を題する投稿あり林友校友其他の現狀を嘲ひ更に會員の交誼機關創立を關ふ文意でや、面白いと思ひました。住所をも明かにせず頗る無責任の態度と認め没書にしました。

○近い處では加茂憲太郎君、平田實君を失ひたる上に更に青瀬も秀才安井元吉(舊姓岩田)君を亡ひました。坐ろに當年の事を思ふのであります。長坂君の吊文を待て嬉しく思ひます。

○林友代は振替口座東京一七六〇番長野縣木曾山林學校を御使用下されば好都合であります。廿週年記念會費金は名古屋三五五五番長野縣木曾山林學校創立紀念會が便利であります。

彙 報



學 校 日 誌

- 六月
- 十九日 林葉助手征矢三郎君任命發令
 - 廿日 延川本縣衛生主事來校寄宿舎に關する衛生狀態視察
 - 廿四日 征矢助手着任
 - 廿六日 放課後春季庭球大會
 - 廿六日 征矢助手新任式放課後歡迎會
 - 廿七日 小橋教諭徵兵検査の爲歸省
 - 廿七日 放課後本學年試驗に關する事項協議の爲職員會
 - 廿八日 本縣荒井技手來校實習林調查視察
 - 廿九日 校長縣下中等學校長會議の爲出張
 - 七月
 - 一日 廣島縣山林會數名參觀視察
 - 二日 弓術部は弓術師範吉田昌智先生を松本市より招聘其講演教授を受く
 - 三日 校長小橋教諭歸校
 - 東伏見宮殿下御葬送當日に付校長講堂訓話謹而哀悼の意を表す
 - 八日 第一學期試驗日割發表本月十五日より十九日迄
 - 十日 安筑實業學校博物科設備調查協議會開催東筑摩農學校宮本教諭南安農學校波多腰教諭來校

◎大正十年度校友會費決算

十五日 本日より四日間第一學期試驗	
一、收入之部	總收入
一金千五拾壹圓貳拾錢也	內譯
金九百七圓貳拾錢	生徒會費二千二百六十八ヶ月分
金六拾四圓	職員會費百六十ヶ月分
金八拾圓	林友雜誌代
(備考)	
豫算收入額千五拾四圓四拾錢に對し金參圓貳拾錢收入減額	
二、支出之部	總支出
一金九百四拾四圓六拾四錢也	內譯
庶務	九拾四圓九拾九錢
文藝	參百拾四圓八拾錢
雜誌	五拾壹圓六拾錢
辯論	

◎校 友 會 役 員

(大正十一年度)

部 名	係 名	主 任	問 部 長
庶務部	庶 務	西澤 三清、勝野、征矢	正 副 部 長
文藝部	辯 論	田 中 杉山、大竹、伊藤、日比野	原 金 一、太田 幸保
武道部	柔 道	菊池 荒木、西澤	多田 駒藏、市川 幸一
運動部	庭 球	小貫 小橋、佐藤、阿部達三郎	大池 澄雄、河合 幸一
野球其他	野 球	中村 伊藤、吉川、荒木、大竹	伊佐治彌兵衛、白州章吾
		小貫、大竹	相吉甲子水、小松 雄二
			樋口 靜雄、加藤 浪雄
			青木 茂幸、波羅 友治

◎會員消息

○加藤七藏君(十五) 山形縣新任小林區署
へ轉任被命最上郡萩野村萩野保護區官
舎に居住

○杉本貢君(二) 池主鐵治君(十八)

○高木万平君(十八) 樺太縣廳臨時森林作
業所勤務

○川崎本雄君(四) 長崎縣林務課へ轉任

○梶田實治君(十五) 岐阜縣產業技手被命
内務部山林課勤務

○大坪時治君(十六) 長野縣林務課へ

○三原忠一君(十七) 六十三銀行茅野支店
勤務の處退職訪郡岡谷居住

○前田早苗君(十八) 東京帝大農學部附屬
演習林本部へ轉任

○阿部益實君(十) 下伊那郡波合村官行造
林署官舎へ轉居

○關谷靜夫君(十) 靜岡縣技手を辭し松本
公有林野官行造林署松本擔當區詰被命

○各務傳六君(十四) 北海道夕張郡夕張町
字鹿の谷北海道炭礦汽船株式會社支店
社宅居住

○長坂清人君(十四) 九州市國大學醫學部
(福岡市)

○古根是君(一) 鹿兒島縣肝屬郡佐多村大
根占小林區猿坪官行斫伐事業所擔任

○大原猛志君(十八) 病氣を以て退役高知
縣須崎小林區署在勤被命

○佐藤誠一君(十六) 瀨手縣廳を辭し西筑
摩郡書記被命

○北原隆頼君(十九) 飯田公有林野官行造
林署に轉任

◎記念會釀金領收報告

金拾圓

金五圓

金五圓

金拾圓

金拾圓

合計金參拾五圓

累計金壹千九百拾九圓也

◎林友代領收報告

金壹圓五拾錢

金壹圓五拾錢

◎塚越先生謝恩領收報告

金貳圓

金貳圓

會參圓

金貳圓

金貳圓

計金拾貳圓

累計金拾七圓也

◎塚越先生を謝恩金につきて

大坪 時治

征矢 三郎

佐藤 誠一

誠實に我校の爲御教導の任にあたつて下
さつた塚越先生は本春御轉任なさつてしま
つた。こは誠に惜い事であつた殊に我等十
六回卒業の同窓生にとつては先生は級主任
として御世話下され非常な御骨折もかけて
居る今當時を顧みて思ひ起すこと一再では
ない。我等は皆して先生に謝し度いと思ふ
のである、今丁度母校にて同先生の謝恩金
募集中であるが我等は競つて之に應じ僅か
にても志を表し度いと思ふ。林友誌上を借
り敢へて同學諸兄にお奨めする次第である



大正十一年七月廿三日印刷

大正十一年七月廿五日發行

長野縣西筑摩郡福島町八十五番地

編輯兼發行人 安井正夫

長野縣松本市小柳町八十五番地

印刷人 淺川吉藏

長野縣松本市小柳町八十五番地

印刷所 淺川活版所

長野縣西筑摩郡福島町八十五番地

發行所 蘆澤書店

【定價金參錢】